

# 全日本都道府県対抗 剣道優勝大会結果

監督 谷口 一眞

この大会は、令和三年四月二十九日、大阪市内の「エディオンアリーナ」で開催予定のところ、新型コロナウイルス感染症のため延期となり、十二月二十六日和歌山市の「ビッグホール」にて開催されました。

コロナ禍において、県内では、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発令され、稽古場所や稽古相手に苦慮しながら、各選手は試合にベストな体勢で望めるよう工夫・努力を重ねてきました。

選手は

- 先鋒 阪野 理達 【高山西高校】
- 次鋒 杉田 龍太郎【鹿屋体育大学】
- 五将 大橋 賢也 【岐阜刑務所】
- 中堅 坂本 太一 【岐阜薬科大学】
- 三将 五十嵐 洸 【岐阜県警察】
- 副将 谷村 祐樹 【株】日本耐酸塩
- 大将 小池 徳久 【株】IA技研

初戦は山形県との対戦で、選手の顔には若干緊張が現れているように見えたが、先鋒の勝利で流れを掴み、この後も勝利を重ね、結果は五対一と勝利することが出来ました。

二回戦は茨城県と対戦しましたが、初戦とは対称的に一対五で敗退しました。

この大会を通して感じたことは、決め技（得意技）を生かす為の攻防の在り方や相手を威圧する中心を攻める剣道等について考えさせられました。

試合内容は、以下のとおりです。



開会式（和歌山ビッグホール会場）

先鋒	阪野 理達	山形県	長谷川 柏倉
次鋒	杉田 龍太郎	岐阜県	吉倉 武蔵
五将	大橋 賢也	岐阜県	松崎 山下
中堅	坂本 太一	岐阜県	山部 引分け
三将	五十嵐 洸	岐阜県	神部 矢口
副将	谷村 祐樹	岐阜県	飯田 吉泉
大将	小池 徳久	岐阜県	茨城県

## とこわか国体代替大会

### 「とこわか剣道大会」開催

監督 谷口 一眞

新型コロナウイルス感染症のため、鹿児島国体に続いて三重国体も中止となりました。二年連続で国体が開催されなかった事は、史上初めてではないでしょうか。各県において予選会を勝ち抜いた選手にとっては、最高の舞台で、自分の技量・勇姿を思う存分発揮できる場所が無くなったため、大変残念な思いを抱かれましたことと推察いたします。

そのような中で、九月下旬、三重県剣道連盟から国体代替大会として「とこわか剣道大会」を十一月二十一日伊賀市内の施設「ゆめドームうえの」で開催しますとの案内を頂きましたので、選手のためにも良い機会であると考え、大会に参



岐阜県チーム

加する事を決定しました。

岐阜県選手は

- 先鋒 江口 海里 (刑務官)
- 次鋒 川畑 竜也 (教員)
- 中堅 高木 和哉 (刑務官)
- 副将 早田 千広 (会社員)
- 大将 小池 徳久 (会社員)

で試合に望みました。最初は三チームのリーグ戦で、試合結果は左記のとおり

先鋒	中村 一	江口	星子
次鋒	西川 引分け	川畑	大内田
中堅	尾崎 引分け	高木	森園
副将	藤井 一	早田	竹中
大将	中越 一	小池	濱田

一回戦石川県とは大将戦になり、双方間合いの駆け引きによる打突の攻防が見られましたが、小池選手が前に出ようとした瞬間を捕らえた中越選手の面が決まりました。

二回戦鹿児島県は、今年の全日本選手権者である星子選手と元世界選手権個人準優勝者の竹中選手を擁するメンバーに挑みました。先鋒の江口選手は、立ち上がりから果敢に攻め込み、スピードのある動きから面に飛び込みましたが、旗は上がりず中盤からは星子選手のペースとなり二本負け、次鋒川畑選手は、終始相手の動きを読みながら対戦し豪快に面を決め一本勝ち、中堅高木選手と副将早田選手は、善戦するも二本負け、大将小池選手は、濱田選手に気負けすることなく素晴らしい面二本で勝利しましたが、対戦成績二勝三敗で負け、リーグ戦敗退となりました。

大会規模は、北海道から鹿児島まで、